

農事組合法人 遠野こがらせ農産(岩手県遠野市) ～ 水稻・大豆のブロックローテーションとピーマン栽培 ～

【ポイント】

- ① 将来を見据え担い手組織を設立し、基盤整備事業により大区画化した農地を農地中間管理事業で集積・集約化。
- ② 水稻・大豆のブロックローテーションと湛水直播栽培による省力化と排水対策による大豆の収量向上。
- ③ 高収益作物ピーマンの導入と女性、高齢者の雇用。

取組の経緯

土淵地区は、小区画、用排兼用土水路で集団転作が困難。担い手不足で荒廃農地が発生。
効率的な営農を目指して平成7年から地区の農家が集まって基盤整備事業に向けた話し合いを開始。
平成11年度に経営体育成基盤整備事業採択後、営農強化を目指して検討を繰り返し、平成14年度に農地利用調整組織として「土淵地区営農組合」と担い手生産組織「こがらせ会」を設立。平成19年度に、土淵地区営農組合とこがらせ会を集落営農組織「土淵地区営農組合」として統合。平成25年度に、組織の強化を図るため法人化し、農事組合法人「遠野こがらせ農産」を設立。(出資者185戸)

取組の内容

① 農地中間管理事業を活用し農地を集積・集約化

農地中間管理事業の活用等により145haの農地を集積・集約化。農地中間管理事業の活用面積は102.8ha。

② 水稻と大豆の3年周期のブロックローテーションを導入

水稻栽培:生産協定を締結している岩手県オリジナル品種「いわてっこ」を栽培。プール育苗、湛水直播、密苗移植で省力化。
大豆栽培:豆腐業者に引き合いの強い多収品種「シュウリュウ」を栽培。堆肥施用、明渠による排水対策で206kg/10a(県平均128kg/10a)。

③ 高収益作物ピーマンの導入と雇用の創出

平成28年度からピーマンを導入。ネットを利用し受光体勢を確保。地域の女性や高齢者を活用。

④ 地域内外の交流を促進化

地域住民を対象に収穫感謝祭を開催。(一社)遠野みらい創りカレッジと連携した地域活性化。地域の小学生の農業体験、都市部の高校生や大学生の農業体験を受け入れ。
※遠野みらい創りカレッジは震災後に地域活性化を目的に設立。



組織の概要

・代表者:立花 利夫
・構成農家数:185戸
・経営面積:144.8ha
・主要作物:水稻87.8ha
大豆 35.9ha,WCS5.3ha,
飼料作物7.5ha,ピーマン
0.4ha

経営体育成基盤整備事業

・地区名:土淵地区
・工期:H11～25
・受益面積:122.6ha
・主要工事:区画整理,
水路工事等



直播田植機による田植え



ピーマンの栽培

(農) 遠野こがらせ農産 法人の活動状況



法人の役員。左から佐々木女性部長、立花組合長、佐々木総務部長。



大区画・汎用化されたほ場



直播田植機による田植え作業



大豆の多収品種「シュウリュウ」の栽培



女性労働力を活用したピーマンの選果



地元の小学生の田植え体験